



修学旅行part①

3年生は6月5日からの3日間、東京方面へ修学旅行に行ってきました。3日ともほぼ天候に恵まれ（和歌山は7日、大変強い雨が降りましたが・・・）、全行程を無事に終了することができました。

生徒は出発式では意気揚々としていたのですが、日頃歩かない距離を歩き疲れてくらくたで帰ってきました。(次号へつづく)

3日間の行程

6月5日（水）箕島駅集合 → くろしお → 新幹線 → ディズニーランドで班別行動

6日（木）国会議事堂見学 → 都内班別自主研修 → サンセットディナークルーズ → 東京タワー

7日（金）東京スカイツリー → 新幹線 → くろしお → 箕島駅解散



少年メッセージ2019 有田地方発表会

2年生吉田空未さんが、6月8日に行われた「少年メッセージ2019 有田地方大会」に出場し、特選を受賞しました。「本との出会い」というタイトルで、いろんな人生が学べる、リラックス効果がある、文章力が上がるの3点から読書の良さについて書いています。ステキな本との出会いが今後の人生を変えてくれるかもしれませんね。原稿を紹介します。

「本との出会い」

初島中学校 二年 吉田 空未

私の学校には、「朝読書」という時間がある。私はこの時間がいつも楽しみで、その時間になる数分前から読書を始めている。

中学校に入る前、私は小説より漫画が好きだった。小説というと、文字ばかりで疲れるというイメージがあったからだ。それが、中学生になって、小説を久しぶりに読んでみた。まだ、イラストのある小説だったが、とてもおもしろいと思った。その後、イラストのない小説も読むようになった。文章の細かいところまで読むのが好きになり、私は初めて小説の本を買った。自分で買ったお気に入りの本を持つことで、読書がもっと好きになった。

読書の良さは三つある。

一つは、いろんな人生が学べるということ。国語の時間に先生が言っていた。「登場人物は、私たちにいろんな影響を与えてくれる。」その言葉を聞いたとき、読書をするのが私たちに影響を与えてくれると思った。私の友人も、ドクターヘリを取り上げた小説を読んで、将来はフライトナースになりたい、と言っていた。まさしく、読書が影響を与えてくれたのだろう。私は、まだそんな経験はないけれど、いつか、私の人生を変えてくれる本との出会いがあるかもしれない。

二つ目は、リラックス効果だ。読書をしていると、いつの間にか時間が過ぎている。そんなことが時々ある。その本の世界にのめり込む時や、読み終えた後のすがすがしさが気持ちいい。私は、どうしてもストレスをため込んでしまうから、リラックスのために読書をする。気持ちを落ち着かせてくれる存在、それが読書である。

三つ目は、文章力が上がること。たくさんの本と出会うことで、いろんな言葉に触れることができる。細かいところまで読み、新たな発見に気づくことができる。ただ本を読むだけではもったいないから、「これってどういう意味だろう。」などの疑問を放置せずに調べている。調べて納得することが大事だ。私も文章を読み重ねて、文章力をつけ、難しい本も理解できるようになりたい。自分の世界をどんどん広げていきたい。

しかし、最近ではスマートフォンの普及により紙文化が失われつつある。何もかもがデジタル化しているのだ。私も時々電子書籍を利用している。電子書籍のメリットは、紙の本と比べて、持ち運びがしやすいことだ。一つの端末があれば、たくさん本を持ち歩くことができる。けれど私にとってのデメリットは画面の光があって読みにくいということだ。ノルウェーの大学の研究結果で、電子書籍で読んだ人の方が、紙の本で読んだ人と比べて内容を記憶していないということがわかった。1ページずつスライドして読む電子書籍とは違い、紙の本は見開き2ページずつをじっくり読めるので、内容がわかりやすい。また、紙の香りや、触り心地と一緒に楽しむこともできる。感動を形として残しておけるということも、紙の本の良さである。

これから、デジタル化が進むと、紙の本は衰退していくだろう。しかし、紙の本の良さもたくさんの人に知ってもらいたい。読書の楽しさを、もっと知ってもらいたいのだ。たくさんの方が本とふれ合い、自分の人生の背中を押してもらえ、気持ちを落ち着かせてくれる、たくさんの方が学べる、そんな本に出会える人がもっと増えればとても嬉しい。私は、読書の素晴らしさをこれからも伝えていきたい。



わかやま環境賞受賞

この度、初島中学校生徒会が主催する「クリーンアップ作戦」について、第18回「わかやま環境賞・特別賞」をいただきました。地域貢献の一環として全校生徒が取り組むこの活動について、環境保全に優れた功績があったという趣旨で、和歌山県知事からこのような賞をいただくことができました。今後、さらに張り合いを持って取り組めそうです。

「先輩から引き継いでいるが、当たり前のような活動になっている。地域のためにしていることが、認められてうれしい。」（生徒会長・久保川君）

